

**製品名: CDH1 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM80914**

研究使用のみ

**概要**

|        |   |
|--------|---|
| 説明     | マウスモノクローナル抗体                                      |
| 宿主     | ねずみ   |
| 応用     | WB,ELISA  |
| 反応性    | ヒト、マウス、ラット、ウサギ                                    |
| 標識     | 非共役   |
| 修飾     | 未修正   |
| アイソタイプ | Mouse IgG1  |
| クローン性  | モノクローナル   |
| 形態     | 液体  |
| 濃度     | 1mg/ml  |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送     | 氷袋  |
| バッファー  | 0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。                   |
| 精製     | アフィニティー精製   |

**応用**

|      |                                      |
|------|--------------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量  | 135kDa                               |

**抗原情報**

|              |   |
|--------------|---|
| 遺伝子名         | CDH1  |
| 別名           | UVO; CDHE; ECAD; LCAM; Arc-1; CD324; CDH1; E-cadherin; E cadherin |
| 遺伝子 ID       | 999.0   |
| SwissProt ID | P12830  |
| 免疫原          | 大腸菌で発現したヒト CDH1 の精製された組み換え断片。                                     |

**背景**

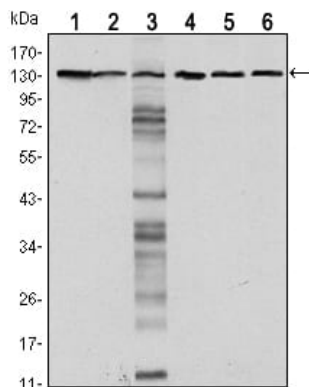
E-カドヘリンは、上皮細胞の接着結合部に局在する 120 kDa の膜貫通糖タンパク質です。そこで、E-カドヘリンは細胞質カテニンタンパク質を介して細胞骨格と相互作用します。カルシウム依存性接着分子であることに加え、E-カドヘリンは上皮結合形成の重要な

制御因子でもあります。カテニンとの結合は細胞間接着に不可欠です。これらの E-カドヘリン/カテニン複合体は、接着帯と側方接着プラークの両方で皮質アクチン束と結合します。チロシンリン酸化はこれらの複合体を破壊し、細胞接着特性の変化をもたらします。E-カドヘリンの発現は、浸潤性の高い低分化癌においてしばしば低下しています。これらの細胞における E-カドヘリンの発現増加は、浸潤性を低下させます。したがって、E-カドヘリンの発現または機能の喪失は、腫瘍形成の進行における重要なステップであると考えられます。組織特異性: 非神経上皮組織。

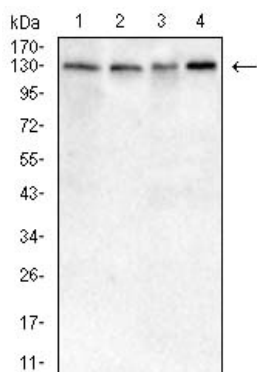
## 研究分野

TGF- $\beta$  シグナル伝達経路

## 画像データ



LNCAP (1)、A431 (2)、DU145 (3)、PC-3 (4)、PC-12 (5)、T47D (6) 細胞溶解物に対する CDH1 マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。



PC-12(1) C2C12(2)C6(3)F9(4)細胞溶解物に対する CDH1 マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。